

2018 年度 第 3 回 3 運営委員会 議事録

日 時 : 2018 年 8 月 19 日 (日) PM 1:00~5:00

場 所 : 京都教育文化センター 204 号室

出席者 : 伊藤、近藤、齋藤、坂爪、謝敷、ツツミ、花原、三田村、武蔵
(あいうえお順)

議 題

1. 会員の動向 特になし

2. オーストラリアお返し展について <武蔵氏>

・ 7 月の総会后、ただちにオーストラリアのアッキー氏に対し、総会の結果を連絡したが、返信は来ていない。

但し、予測される事については、今から考えておく必要がある。

→ どこで作品を集めるか？

フラットの状態で各自、三田村まで送って貰う。

→ どのような形でオーストラリアに送るか？

フラットで送ると木枠等規制があるので、巻いてドラムで送るのが安全。
集めた作品を、武蔵氏の研究室でドラムに入れてオーストラリアに送る。

→ 保険はどうするのか？

→ コメントをどう翻訳するか？

→ 今回はツアーを組まず、レセプションやワークショップの日時、場所へ各自が格安航空などで向かう。参加者を募る。
ワークショップは木版リトなど提案してみる。

3. 国際展図録の有効利用について

・ 図書館では、全国内外から大量に書籍等が送付されており、最終的には片隅に追いやられているのが現状であることから、有効利用になるとは思えない。

図録は会員の資産でもあるので、まず会員全員に中国展を除いた図録 7 種類とポーランド展の時のパンフレットを配布。

その後、美術系大学等には残りの図録 7 種類と中国展の図録を合わせて発送。

送り先の住所等の資料は、九州の 加藤 恵 氏が、大学版画祭の事務局をされている関係で、扱っているデータを使わせてもらう。

- ・ 会員に配布する方法として、ブロック展に参加する会員へは、ブロック展先へまとめて発送し、配布。ブロック展不参加の会員と、すでにブロック展が終わった九州・沖縄ブロックへは事務所から送付する。
- ・ 会員には、有効活用してくれそうな学校や画廊、美術館の情報を募り、事務所から送付する。

4. 阪奈・兵庫ブロック展の助成金について

- ・ 阪奈・兵庫ブロック展は2つのブロックが合同で開催するため人数が多く、発送送料等、掛かる経費が多くなるため、助成金を他のブロックより多めにもらえないかという要望が出ている。

→1ブロック 30万円と決まったので、その範囲で納めるべき。
他のブロックでも懇親会などは会費制にしているところも多い。

5. 閉会時期の見直しについて <花原氏>

- ・ 花原氏より、「版画京都実行委員会の方向性についてのこれまでの経緯」及び「版画京都実行委員会の今後について」の資料を提出された。

それにより、京都実行委員会の閉会時期と京都十景最終巻発行の時期を分けて考えてはどうか。閉会時期を早めることにより、オーストラリアお返し展や図録の配布などで会の資金を有効に使える。

→ 今会議参加者全員が、閉会時期を早めることに対し、異論無し。

閉会時期としては恐らく、オーストラリアお返し展の後処理が終了する2020年中頃が適当と思われる。

→ これまで発行した京都十景のあいさつ文に、「発行 京都版画実行委員会とあるが、それは新たな名称をつけて対応する。
例えば「京都十景制作委員会」とか。

【閉会の為の準備としてどういうことがあるか】

- ・ ニュースレターは、すでに担当スタッフが退会等で不在になったため、次号を待たず廃止とする。

WEB は閉会しても1年くらいは置いておき、会が閉会したことを発信する必要がある。

- ・会で購入したノートパソコンは古く、何年も使っていないので廃棄する。
- ・デジタルカメラはどうか。その他、展示用品はどうなっているか、各担当者に確認する。
- ・京都十景への貸し付け分で、物納処理された14冊をどうか。
→まずはブロック展で販売することに努める。

最終第十集の発行までは、値引き販売やバラ売りも出来ないため、会員の了解が得られれば京都十景へ寄付として返還し、資産を精算する。

6. その他

- ・京都十景の在庫について
 - ・最終第十集を発行後、京都十景のスタッフで対応する。
 - ・今後発行される版画集に関しては、少しでも在庫を減らすため、ap、HCの作成は打ち切り、作家への配布分はエディションの中から配布する。
- ・四国・中国ブロック展について報告（別紙資料参照）
 - ・近藤 幸氏より、12月1日(土) にワークショップと、懇親会を予定
ワークショップでは、木版に水性ニスを使った木版リトを予定

(文責：三田村)